

算数担当が、算数を教えつつ、いろいろなことを考えてみました。

No.15：小数の筆算について考えてみた

$\pi=3.141592653\dots$

令和7年7月10日
墨田区立柳島小学校
校長 近藤 幸弘
柳島小学校算数担当

●「なるほど！」と教科書を見て感心した。教科書には「本質」が書いてあります

4年、小数の筆算による加法・減法です。「答えに、上にある小数と同じ位置に小数点をつける」ということは既に3年生で学習しているので、それほど難しいことはありません。特に気を付ける点といたら、「小数点の付け忘れ」「桁数の異なる場合の筆算の書き方（ $36+0.528$ とか）」「末尾の0の処理①答え～0を斜線で消す」「末尾の0の処理②例5-3.26～5.00と、末尾の0（「ゆうれいの0（零）」と言っています）を復活させる」…あとは繰り上がり・繰り下がりを行正しく行う…大体こんなところでしょうか。

ところで、「答えに、同じ位置に小数点をつける」ということ、当たり前のことなのですが、ここを、今までにない指導を加えました。太字部分です。

たし算の終わった直後の状態です	$\begin{array}{r} 1.86 \\ + 3.18 \\ \hline 5.04 \end{array}$
ここに、太字を付け加えて…	$\begin{array}{r} (0.01) \text{ ※書かないことも} \\ 1.86 \\ + 3.18 \\ \hline 5.04 \end{array}$
→（答えは）0.01を	こ集めた数
だから、答えは	$\begin{array}{r} \cancel{0.01} \\ 1.86 \\ + 3.18 \\ \hline \cancel{5.04} \end{array}$
	こ集めた数

同じ位置に答えの小数点を打つ…というのを、0.01という単位小数を用いて表すと、ぐっと「本質」を突いた指導になるなあ…と思いました。このことは教科書にも書いてあります（単位小数いくつ分…以前、単位分数を本紙で少し触れたような…）

このこと、実は、かけ算・わり算の筆算でも、途中の数について「何が〇個集まった数ですか」と、学力調査等でよく問われています。「10が〇個」「100が〇個」ときちんと理解しておくことは、「本質」を理解するために必要です。

テクニックももちろん大切です。それを裏付ける理由・「本質」をしっかり理解することも、同じくらい大切です。